

KITCHEN LIBRARY

@Arabeschi di Latte Studio

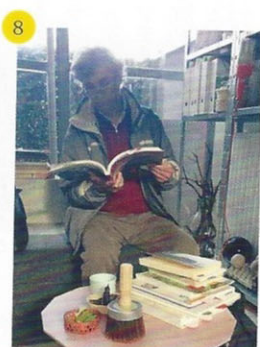


1.「キッチン・ライブラリー」の会場となったランブラーテ地区のアラベスキ・ディ・ラッテ新スタジオ。2.開催中は家具をすべてKARIMOKU NEW STANDARDに。3.4.チョコレートにディップした洋梨や豆と食べるカルーアなど、こだわりのスイーツ。その場で焼いてくれるパンケーキはメープルシロップ添えで、焼きたてクッキーも大人気。お茶のパーも登場した。5.キッチン。6.「COLOUR TABLE」他、コレクション発表に先駆けた新素材、新色も特別に紹介された。



7.左はクリエイティブディレクターのデヴィッド・グレットリ。「国内外のデザイナーのスピリットや発想とカリモクの歴史や技術が融合することで生まれた家具を、身近な存在として、長く使ってほしい。今後はナタリー・デ・バスキエのデザインによるニットのクッションカバーも検討中です」。右はアラベスキ・ディ・ラッテの中心人物、フランチェスカ・サルティ。フードデザインでも知られるデザインスタジオ。

©カリモク家具



8.ソーシャル、記憶、ハビネス、喜び、クラフツマンシップ……など31のキーワードをもとにフォルティノ・エディションズがセレクトした本を置いたコーナー。付箋も用意された。「本に貼られた付箋がどんどん増えていく様子は楽しいですね」とグレットリ。



「生活を楽しむこと」を伝える場。食や本もあわせたメッセージ 6

A NEW STANDARD IN JAPANESE FURNITURE MAKING

@Spazio Rossana Orlandi

Photo=太田祐実 Ota Takumi(8除く)

スパッツィオ・ロッサーナ・オルランディにて。カリモク・デザイン・チームの「TORII(トリイ)」(左の椅子)をはじめ3年間に開発された約30点。1.「A-FRAME DESK」トマス・アロンソ、2.「SOFT TRIANGLE(ソフトトライアングル)」TAF、3.「A-FRAME TABLE」トマス・アロンソ、4.「CASTOR CHAIR(キャストールチェア)」BIG-GAME、5.「COLOUR BIN(カラービン)」、6.「COLOUR WOOD DINNING(カラーウッドダイニング)」共にショルテン&バーイングス。



有効活用されていなかった国内の広葉樹を素材として、デザイナーの提案を形にできた「KARIMOKU NEW STANDARD」。先日、柳原照弘に代わってデイヴィッド・グレットリがクリエイティブディレクターに就任。新ディレクターとなって初めての展示がミラノサローネで行われた。

会場は二カ所。スパッツィオ・ロッサーナ・オルランディに加え、イタリア人のデザイナーナゲル・アラベスキ・ディ・ラッテのスタジオでの「キッチン・ライブラリー」。「コレクションのアイデンティティを伝えるため、リアルな住空間での展示もしたかったんです」とグレットリ。

「1月、アラベスキ・ディ・ラッテのフランチェスカが新スタジオの写真を見せてくれました。ここで焼きたてのクッキーなどを出そうと決めました」。会期中、木曜の朝9時から12時には、ブランドパーティーも開かれた。

「本」もこの重要なポイント。「マイアミの出版社フォルティノ・エディションズと僕、アラベスキ・ディ・ラッテがそれぞれ大切にしているキーワードをもとに選んだ本を置きました。カリモクの家具で読書をしてもらう。ゆったりとした時間を味わってほしい……」

「家具を通して、生活を楽しむこと」を伝えたい」とグレットリ。穏やかで温かく、その言葉通り、楽しさに包まれた場に。